



E5系はやぶさ10周年記念 ウオッチ

はやぶさの疾走感もそのままに表現したスタイリッシュなデザイン。JR東日本商品化許諾済

プレミコ

開く

ライフ | 『誰がために医師はいる クスリとヒトの現代論』 #医療・病院 #薬物 2021/05/21 11:00

#1

「薬物に手を出すと廃人になる」私たちがずっと教わってきた話はウソである

そのメッセージは被害を増やすだけ

PRESIDENT Online

松本 俊彦
精神科医



1 2 3 4 5 次ページ

薬物に関しては「ダメ。ゼッタイ。」「手を出すと廃人になる」というメッセージが繰り返し伝えられてきた。しかし専門医の松本俊彦さんは「そうした理解は間違っている。薬物を一時的にやめた人は“まとも”に見える」という――。(第1回/全2回)

※本稿は、松本俊彦『誰がために医師はいる クスリとヒトの現代論』（みすず書房）の一部を再編集したものです。

ランキング

1時間 週間 いいね!

夫「なぜここまで責められるのか」
「37度くらいなら身体は重くよね」発熱中の夫にゴミしを命じた妻の理屈

「僕、無理な気がします」



2010年1月20日、東京都港区と警視庁が共同開催した「港区薬物乱用防止キャンペーン」でパレードする武井雅昭区長（中央）ら（東京・六本木）

[全ての画像を見る \(5枚\) >](#)

カメラの前で謝罪し、落涙した有名女優

2009年の夏、世間は一人の女優の薬物事件に騒然とした。

「うさぎって寂しいと死んじゃうんだから」という名セリフで知られる清純派女優と覚せい剤という組み合わせの意外性、それから、火曜サスペンス劇場さながらのスリリングな逃避行が相まって、事件報道は異様な過熱を見せた。

ワイドショーは連日その女優に関する話題で持ちきりとなり、週刊誌やスポーツ新聞も多数の憶測記事を書き立てた。

そしてこの劇場は、保釈後会見で大団円を迎えることとなる。いま振り返っても、会見での女優のふるまいは見事だった。神妙に目を伏せた顔は、それまで留置所にいた人間きぜんとは思えないほど美しく、毅然と謝罪する態度には神々しいオーラさえ漂っていた。

落涙のタイミングも絶妙だった。謝罪のために頭を下げた姿勢のときに涙滴を落下させれば、マスカラが溶け出して「パンダ目」になることもない。まさに女優の面目躍如だ。ちなみに、芸能リポーターの故・梨元勝の観察によれば、会見中に彼女が落下させた涙は22滴であったという。

あの会見で、女優は多くの人に「自分は依存症までにはなっていない」ことを印象づけるのに成功した。なぜなら彼女の毅然とした美しさは、人々が抱く依存症者のステレオタイプとは似ても似つかなかったからだ。しかし、意地悪くも私は勘ぐってしまうのだ。この会見に落胆した人もいたのではなかったか、と。

[次ページ>](#)

- 2 大卒の新人をたった1週間退職に追い込んだお局職員の「ある口癖」
- 3 自分だけはモテるという勘違いやり手経営者だった「紀州ドン・ファン」は、なぜ55歳で年下妻の愛を信じたのか
- 4 学校ではどんな現象かは学ばない子どもに月経や射精について話すときに「絶対使っていけない言葉」2つ
- 5 職場ならどう答えるか考えるべき妻に頼みごとをされたときに絶対に言うてはいけない「あるひと言」
- 6 「お願い×同調圧力」はもう限界だ「自粛要請を拒否したら黒字に転換に従う人ほど損している
- 7 君はイエスの「危機」を知っているか「3分たっても歌が始まらない」山崎きなりプロブレにはまった瞬間
- 8 株式投資で得られる究極のリターン「インデックス投資」だけを続けるられる機会を逃している
- 9 「開催都市契約」を精読してみると…米陸上代表も合宿中止…それでもを言い出せない「不平等条約」の中
- 10 町議「ここまでの騒ぎになるとは」「コロナ交付金で巨大イカ建立」世された能登町の公金感覚を問う

[もっと見る](#)

